

1. 科目名 (単位数)	喪失の悲しみへの援助 (2単位)	3. 科目番号	PSMP6288
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義を中心とする。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	かけがえのない大切な人との別離ほど我々を苦悩させるものはない。ましてやそれが死によりもたらされ、永遠に会うことがかなわないとなった時、我々は悲しみ、嘆き、怒りなどの感情面はもちろんのこと、身体的な不調や思考の混乱、さらには行動上の問題など多様な事柄を抱える。そこで本講義では、喪失の悲しみのなかでも特に死別体験がもたらすものに焦点をあて、グリーフカウンセリングによる援助の可能性と限界について考察したい。		
8. 学習目標	次の2点を目標とする。 1 グリーフカウンセリングの理論的枠組みと方法、具体的な技術について、①遺族支援の必要性、②死別の悲しみの特質、③遺族の持つ両義的反応、④哀悼へのかかわりの点から理解する。 2 自死(殺)遺族と犯罪被害者遺族へのかかわりのあり方について理解する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題は講義中に指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 教場で資料を配布する。 【参考文献】 鈴木康明『グリーフ・カウンセリング』(山崎久美子編「臨床心理クライアント研究セミナー」) 至文堂 J.W.ウォーデン『グリーフカウンセリング』川島書店 若林一美『死別の悲しみを超えて』岩波書店		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 実践を前提とする理論的枠組みを正確に理解する。 ○評定の方法 レポート 60%、講義への関与度などその他 40%		
12. 受講生へのメッセージ	主題に応じ演習を実施する。また受講者による研究発表を行う。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	1 ガイダンス		
【学習の目標】	本主題を学習する際に必要な姿勢と、学習効果をたかめるために必須の学問領域について理解する。		
【学習の内容】	自己に対する情緒的な気づきと、社会学、倫理学、生物学、死生学などの概要を整理する。		
【キーワード】	気づき、個性、生と死		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	心理学以外の事柄にも関心を持つ。		
2. テーマ	2 遺族 (1) 遺族について 1) survivor と bereaved family 2) 遺族へのかかわり		
【学習の目標】	遺族について、定義と意味を正確に理解する。		
【学習の内容】	遺族の特質を正と負の両面から具体的に整理する。		
【キーワード】	ネガティブサバイバー 自責		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。		
3. テーマ	(2) 遺族理解 1) 反応の個別性 2) 共通する反応		
【学習の目標】	遺族支援を目指し、遺族の持つ特質を正確に理解する。		
【学習の内容】	反応の個別的な部分と共通する部分の両面を整理する。		
【キーワード】	個別性、普遍性		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。		
4. テーマ	3 死別の悲しみ (1) 特徴 1) 個人差 2) 主観性		
【学習の目標】	死別の悲しみの全体を正確に理解する。		
【学習の内容】	死別の悲しみの個人差が優位に立つ部分と、それがもたらす社会的偏見について整理する。		
【キーワード】	死別 グリーフ 偏見		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。		
5. テーマ	(2) グリーフ 1) 情緒 2) 身体反応 3) 認知 4) 行動 5) 事例から		
【学習の目標】	グリーフの4領域について正確に理解する。		
【学習の内容】	情緒、身体、認知、行動にまたがるグリーフを具体的に整理する。		
【キーワード】	悲嘆と悲哀 4領域		
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。		
【参考文献】	教場で資料を配布する。		
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。		

6. テーマ	(3) モーニング (mourning 哀悼) 1) ボウルビィ 2) 鈴木 3) 事例から
【学習の目標】	哀悼の過程について正確に理解する。
【学習の内容】	哀悼の個性を、先行研究、事例から整理する。
【キーワード】	モーニング 過程
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
7. テーマ	(4) ストレス反応 1) PTSD 2) 事例から
【学習の目標】	急性ストレス障害、PTSDについて正確に理解する。
【学習の内容】	遺族の反応の意味について精神医学的知見も参考に整理する。
【キーワード】	急性ストレス障害 PTSD PTG
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
8. テーマ	4 グリーフケア (1) 自死(殺)の遺族 1) 特徴 2) 遺児について
【学習の目標】	遺族ケアを、特に自死遺族に焦点を当て正確に理解する。
【学習の内容】	自死遺族の傾向、自死遺児の傾向について整理する。
【キーワード】	自死 遺児
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
9. テーマ	3) かかわる際の留意点
【学習の目標】	自死遺族支援の具体的かかわりについて正確に理解する。
【学習の内容】	自死遺族支援の現状と課題、かかわりの留意点を整理する。
【キーワード】	自助グループ サポートシステム
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
10. テーマ	(2) 犯罪被害者の遺族 1) 特徴 2) かかわりの留意点
【学習の目標】	犯罪被害者の遺族支援の具体的かかわりについて正確に理解する。
【学習の内容】	犯罪被害者の遺族支援の現状と課題、かかわりの留意点を整理する。
【キーワード】	犯罪被害者
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
11. テーマ	(3) 喪の語り 1) 語る意味 2) 傾聴とは
【学習の目標】	死別の悲しみと語りについてその意義を中心に正確に理解する。
【学習の内容】	遺族の語りの意味と意義について具体的に整理する。
【キーワード】	語り 物語
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
12. テーマ	5 グリーフケアの実際 (1) 死別体験者のためのわかちあいの会 (2) 自死遺族・遺児の場合
【学習の目標】	実際に行われているグリーフケアについて限界、留意点も含め正確に理解する。
【学習の内容】	グループによるかかわりを取り上げ、利点、欠点の両面から整理する。
【キーワード】	わかちあい
【学習の課題】	教場における課題に真摯に対応する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自己の持つ喪失体験と適切な距離感を保つ必要性について考える。
13. テーマ	6 課題学習
【学習の目標】	自らテーマを設定し、死別の悲しみへの援助についての理解を深める。
【学習の内容】	テーマについての発表、意見交換を中心とする。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	他の研究主題にも積極的関心を持つ。
14. テーマ	課題学習
【学習の目標】	自らテーマを設定し、死別の悲しみへの援助についての理解を深める。
【学習の内容】	テーマについての発表、意見交換を中心とする。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	他の研究主題にも積極的関心を持つ。
15. テーマ	7 総合討議
【学習の目標】	死別の悲しみへの援助についての各自の見解をまとめる。
【学習の内容】	意見交換を中心に全体を総括する。
【参考文献】	教場で資料を配布する。
【学習する上での留意点】	自らの見解を整理統合し、文章化することを視野に置く。